



UP DATE



■ 2006年非開削技術研究発表会を開催

11月29日中央大学駿河台記念館（東京・神田駿河台）の281号教室において2006年非開削技術研究発表会を約180名の参加者を集め開催した。

論文発表は下表のとおり5セッション19編。うち改築推進工法関連が5編あり改築更新の時代に突入したことを感じさせられた。また、非開削技術は都市土木である、という概念を一掃した北海道の原野を施工した報告や土被り0mに構造物を築造した技術、コンクリート階段に管きょを埋設する技術、管更生などに使われていた素材を推進工法やシールド工法などの立坑に利用するなど、新たな試みや新しい技術の報告が相次いだ。参加者らからも具体的な事例を取り上げた質疑などが活発にあり、有意義な研究発表会となった。



新たな試みや真新しい技術の発表に活発な質疑が交わされた

第17回非開削技術研究発表会 プログラム

会長挨拶			会長 松井 大悟
9:20～9:30			
第1セッション 改築推進工法関連技術 (1)			
9:30～10:30			座長：千葉工業大学土木工学科教授 大迫 健一
1-1	非開削・管置換更新工法（アーバンノーディグR工法）による老朽管路更新工法の検討	日本ノーディグテクノロジー(株)	宮崎 俊彦
1-2	パイプキユア工法（改築推進工法）の施工事例	(株)松永建設	石田 真一
1-3	改築推進工法に伴う地盤変状計測および解析	大林道路(株)	山岡 礼三

第2セッション 改築推進 (2)・管更生工法関連			
10:30～11:50			座長：(財)下水道新技術推進機構技術評価部長 平林 正行
2-1	ライフラインを再生する新改築推進工法『Rebirth Ace System』の開発	アイレック技建(株)	宮崎 恭一
2-2	スปีーダー SPM工法（老朽管更新工法）の開発	(株)ホウショウEG	影目 一夫
2-3	管路更生工法による複合矩形渠（ハートSPR工法）の内水圧性能	積水化学工業(株)	渡辺 充彦
2-4	中国上海における日本の下水道管更生技術の普及活動	管麗環境技術（上海）有限公司	孫 躍平

11:50～12:50 昼食休憩

第3セッション 推進工法関連技術 (1)・HDD工法			
12:50～14:10			座長：国土館大学工学部教授 堀地 紀行
3-1	SZ切削可能構造材の推進工事への適用	芦森工業(株)	糸久 智
3-2	マイクロ工法による特殊条件下での施工事例	村本建設(株)	森岡 錦也
3-3	フレックスドリル工法による特殊施工事例	不二公業(株)	山口 一史
3-4	北海道でのHDD工法施工事例	岩下産業(株)	岩下 修二

第4セッション 推進工法関連技術 (2)			
14:15～15:35			座長：(社)日本下水道管渠推進技術協会技術部長 川相 章
4-1	ヒューム管推進工法における崩壊性地盤での到達方法	(株)協和エクシオ	松尾 敬太
4-2	小口径管の自動曲線位置計測技術「prism」	アイレック技建(株)	天野 敏男
4-3	超流バランス式破砕型掘進機を用いた施工事例と適用性	(株)アルファシビルエンジニアリング	松元 文彦
4-4	JR根室線下を土被り0mでアンダーパス構造物を築造	(株)奥村組	古川 誠

第5セッション 探査・診断関連技術			
15:40～17:00			座長：アイレック技建(株)取締役営業開発本部長 須藤 佳一
5-1	シールド・推進機内部からの前方探査技術	千葉工業大学大学院	岸本 英之
5-2	衝撃弾性波検査法による石綿セメント管の劣化度評価	積水化学工業(株)	皆木 卓士
5-3	曲がり部の多い配管調査用インテリジェントカメラシステム	アイレック技建(株)	黒岩 正信
5-4	電磁誘導法による連続的な地下埋設物探査技術	NTT インフラネット(株)	中西 信輔
講評および閉会挨拶			
17:00～17:10			技術委員長 楠田 哲也

■ビックリート製品協会第11回定時総会懇親会を開催
「防菌化コンクリート二次製品の標準仕様化を目指して」



懇親会であいさつをする高尾会長

ビックリート製品協会（会長：高尾重道日本ヒューム(株)代表取締役社長）は11月15日帝国ホテル（東京・内幸町）において、第11回定時総会を開催した。

ビックリート製品の実績は発足以来11期で136,600トン。うちヒューム管が54%，マンホールが45%と下水道関連がほとんどである。

ビックリート製品は、硫黄酸化細菌に対する防菌作用のある「ビック剤」をコンクリートに混入し製造したコンクリート二次製品であり、すべてのコンクリート二次製品の硫黄酸化細菌からの腐食を防ぐことができる。同協会は、防菌コンクリートであるビックリート製品が、すべてのコンクリート二次製品の標準仕様化することがビックリート製品の普及拡大につながるとし、今期から下水道用コンクリート製品のみならず、すべてのコンクリート二次製品の防菌化の標準仕様についての普及活動を行っていくとのことである。

■抗菌コンクリート研究会設立10周年
「下水協Ⅱ類認定資器材を目指す」



懇親会であいさつをする平沼会長

抗菌コンクリート研究会（会長：平沼進(株)シナネンゼオミック取締役営業部長）は海運クラブ（東京・平河町）において第10回定時総会懇親会を開催された。総会で会長は「この10年間で会員は34社から81社へ抗菌コンクリート二次製品の出荷量も10万トンをこなすことができた。今後、既設管路の老朽化対策が注目される中、新設の下水道のみならず、改築推進工法など改築・更新分野におきましても抗菌コンクリート工法が役立てるものと確信している」と語った。また、事務局からは、下水道管路施設や処理施設での硫酸によるコンクリート腐食は地方自治体でも問題視されるようになってきており、平成19年早期に、設立当初からの大願であった日本下水道協会のⅡ類認定資器材の認定取得を今年度の最大の目標とするとの報告があった。

編集委員リレー執筆コーナー

大谷 英之
OHTANI hideyuki

(株)イセキ開発工機
取締役管理部部长



あけましておめでとうございます。

編集委員によるリレー執筆コーナーが設けられてから私で5人目の執筆となり1年が経過いたしました。

私の非開削技術との出会いは、昭和57年札幌勤務時に元押用油圧ジャッキを客先に販売したことから始まりました。

当時の札幌市内の下水道工事は、圧気工法の採用が多く弊社

のプロローバックも活躍していました。

さて、現在の国内の非開削工事の状況は皆様ご承知のとおり、関係各位の御努力により小口径から超大口径まで様々な工法が開発され、当協会のキャッチフレーズである「環境にやさしい非開削技術」を実践して多様な施工環境に対応しています。

また、世界に目を向けても日本はマイクロトンネリング技術の優秀性から、東南アジアを中心に活躍しており非開削技術の先進国となっております。

さらには、管路検査、管更生技術等の様々な非開削技術が開発されて我々の身近で活躍しております。

建設業界を取り巻く環境は依然厳しい状況ですが、編集委員として非開削技術の発展の一助として本誌刊誌を活用していただけるように、より良い誌面にすべく微力ながら頑張っていきたいと思います。